

- ▶ この寺に赤穂義士3名の墓があります。
大石内蔵助良雄、大石主税良金、寺坂吉右衛門です。
宝暦年間(1750年頃)に天野屋利兵衛のゆかりと称する人物が
建てたとされていますが、正確なところは不明のようです。

寺坂吉右衛門

赤穂浅野家が刃傷事件のためお取り潰しになった際には、
寺坂吉右衛門は赤穂藩には仕えていませんでした。
その後、大石内蔵助に頼み込み、義士の一員に加えられ
ました。
元禄16年(1703)、吉良邸討入り後、寺坂は広島藩浅野家
に伝令を命じられ、他の義士は自首します。
大石内蔵助は寺坂は行方不明と告げたため、切腹は免れて
います。
延享4年(1747)に亡くなりますが、83歳まで生き永らえ
ています。



赤穂義士の墓と刻まれている碑



大石内蔵助の墓



大石主税の墓



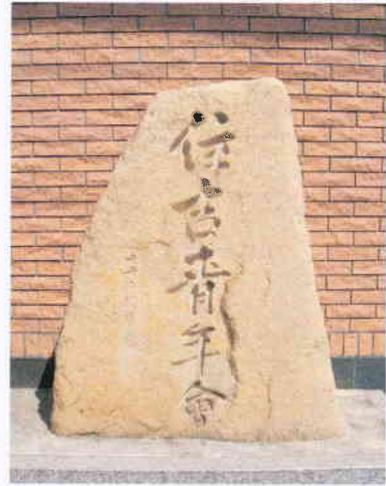
寺坂吉右衛門の墓



12 土佐藩住吉陣屋ゆかりの興善寺跡

住吉区住吉2-6-12(住吉村常盤会館)

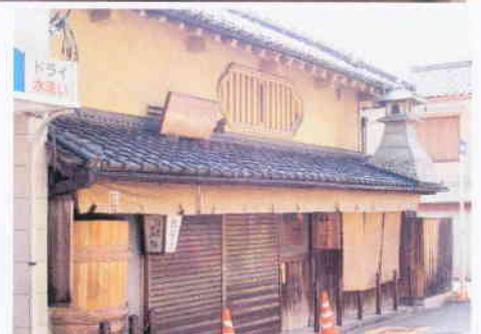
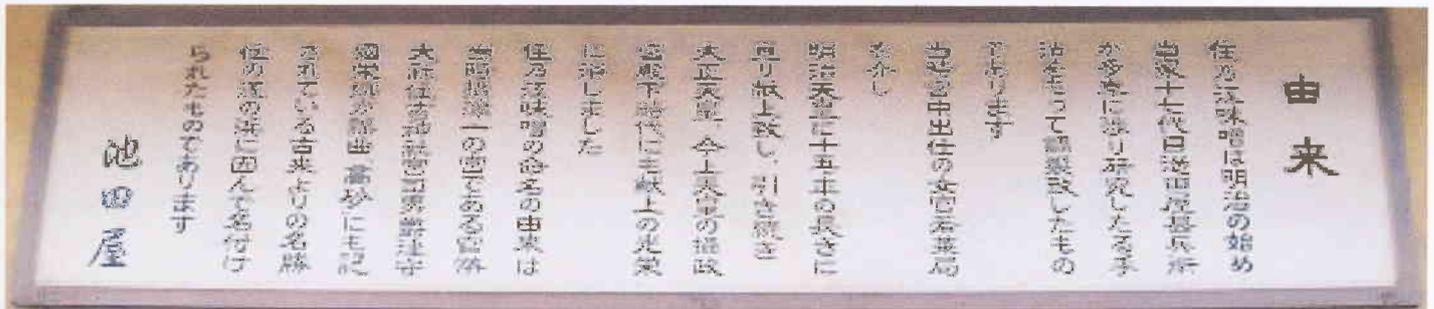
- ▶ 土佐藩住吉陣屋での病死者を葬るための、藩の寺院である興善寺がこのあたりにありました。明治維新後、興善寺は廃寺となり、その跡地に住吉青年会の建物が建てられ、現在、住吉村常盤会館となっています。



13 有形文化財登録建造物「池田屋」

住吉区住吉1-9-22

- ▶ 明治・大正・昭和天皇に献上していた住乃江味噌を商う池田屋で、建物が有形文化財に登録されています。「住乃江味噌」はおかず味噌で、独特の赤い粒味噌と砂糖とをすりつぶし、黄胡麻を合わせたものです。それぞれの味と風味がうまく調和して、素材そのものの旨味を充分に引き出しています。



14 一休禅師寓居(牀菜庵)跡

住吉区上住吉2-6

- ▶ 一休和尚(1394~1481)が、晩年仮棲したところです。一休は後小松天皇の落胤と伝えられ、天衣無縫・反骨で終始し、京都・奈良・堺などに移り住みました。文明元年(1469)奈良から堺に来て、住吉に居住していました。翌年、堺の豪商尾和宗臨がここに一庵を設けて一休を招請しました。一休はここを雲門庵と称し、弟子ともども移り住み、数年後この空き地の一角に別の庵をつくり、牀菜庵(しょうさいあん)と称しました。



15

住吉行宮跡

16

明治天皇聖躅碑

住吉区墨江2-7

- ▶ 南北朝時代、後村上天皇が正平7年(1352)、大和から住吉の神主 津守氏の邸内にあった正印殿に行宮を移されました。のちに観心寺(河内長野市寺元475)へ移られましたが、再び正平15年(1360)、住吉の正印殿に行幸されました。その後二度、この地に行幸されましたが、正平23年(1368)、この地で崩御され、長慶天皇がここで即位されました。明治天皇は、慶応元年(1868)4月20日、御親征討行幸御駐輦中参拝され、明治10年(1877)2月14日御巡幸の時参拝されておられます。

